



ArCS 若手研究者海外派遣支援事業 実務者短期派遣支援 終了報告書

氏名： 岡部 善尚

参加会議・コース名称

北極サークル（平成 30 年 10 月 19 日～21 日、於レイキャビク）

■ 派遣中の活動と成果

ArCS 若手実務者短期派遣事業の一環で、レイキャビク（アイスランド）で 10 月に開催された「北極サークル」に参加しました。

北海道の北極圏との関わりについては、これまでも北極海航路の活用を中心に関係者による施策の検討がされてきていますが、近年、北極海を通じて欧州とアジアを結ぶ海底データケーブル敷設計画がフィンランドを中心に進められており、関係する国際会議「北極圏ブロードバンドサミット」が、北極経済評議会（北極圏 8 カ国の関係者により構成されるビジネス団体）の主催で本年 6 月に札幌で開催されました。北極圏ブロードバンドサミットの開催に当たっては、北海道大学、北海道経済同友会及び道の三者が組織委員会を立ち上げ、受け入れを担当するなど、北海道では北極圏との経済交流拡大に向けた動きが広がっています。

道では海外からの投資誘致促進を積極的に進めていますが、重点分野の一つとして冷涼な気候を活用したデータセンターの誘致を行っており、上述の北極圏におけるデータケーブル敷設を契機に、国際的なデータセンター拠点の候補地として北海道が注目されることを期待しています。今回の北極サークルには、北海道と北極圏の経済交流拡大のヒントを掴むことができればとの思いで参加しました。

北極サークルはグリムソン・アイスランド前大統領等により 2013 年に設立され、政府関係者、研究者、ビジネス関係者等、約 2,000 名が集まる国際会議で、北極版ダボス会議とも言われます。毎年 10 月にアイスランド・レイキャビクで開催されており、本年は 10 月 19 日から 21 日までの開催でした。

会議には日本より河野太郎外務大臣が日本の外務大臣として初めて出席し、我が国の北極政策に関する基調講演を行いました。日本の外務大臣がはるばるアイスランドまで来たこともあり、基調講演は大変注目されましたが、河野大臣は北極の持続可能な経済利用の探求に向けた機会として、北海道がアジアから北極海航路へのゲートウェイに位置しており、より多くの企業が北極ビジネスに関心を向けるよう政府として奨励したいと発言しました。北極関係者への北海道のプレゼンスを高めるという点で、非常にありがたい後押しをいただきました。

会議では全体会合や分科会を通じて様々な議題について活発な議論が行われましたが、ここでは欧州とアジアをつなぐ「北極版シルクロード」に関する分科会について紹介したいと思います。主に北極海航路を中心とした物流について議論が行われましたが、スピーカーとして登壇した北極経済評議会のヒーダー・グジョンソン副議長からは、海運に加え情報通信においても北極版シルクロードの可能性は大きいとの発言があり、その素地として、ノルウェー北部が世界的データセンターの集積地となっていること、そして北極海での海底データケーブル敷設計画について紹介がありました。

加えて、グジョンソン副議長からは、気候変動問題が世界的に注目される中、グーグル等の巨大企業も二酸化炭素排出削減に積極的に取り組んでおり、冷涼な気候によりデータセンターの運営に不可欠な冷房費用が大幅に削減できる北極圏では、新たなビジネスの可能性が期待できるとの発言がありました。なお、グジョンソン副議長は上述の北極圏ブロードバンドサミットに参加するため北海道を訪問したことが

あり、北海道がデータセンター誘致を積極的に行なっていることもよくご存知です。同氏のコミットメントの下、欧州とアジアを結ぶデータケーブルが1日も早く実現することを期待します。

なお、この分科会で登壇したフィンランド外務省のハリ・マキ-レイニッカ北方政策担当大使は、北欧とアジアを北極海底トンネルでつなぎ、高速列車を走らせるという計画について熱く語っていました。本計画はフィンランドで既に検討が進められているとのことで、スケールの大きさに感心しました。

また、会議にはアジアから多くの関係者が参加していました。一帯一路政策を掲げる中国は北極圏との経済交流ルートを構築することに大変熱心であり、グリーンランドでは中国資本による3空港の新規整備の検討が進められています。韓国は特に北極海航路への積極的な参画に意欲的であり、本年12月には「北極サークル・韓国フォーラム」をソウルで開催します。シンガポールは再生可能エネルギーの普及に積極的であり、東南アジア島嶼部の僻地における太陽光発電パネルの普及事業で培ったノウハウを、同じく隔絶されている北極圏の僻地で応用する可能性について提案していました。そして日本からは、ArCSのメンバーである有識者から、それぞれの専門分野における北極圏の研究成果について発表がなされ、参加者からは積極的な質問が相次いでいました。

一連の議論を通じて、北極圏の可能性を確かに感じる事ができました。アジアにおける北極圏へのゲートウェイに位置する北海道としても、北極圏の活力を積極的に取り込み、地域経済の活性化につなげることができるような方策を引き続き考えていきたいと思えます。

最後に、今回このような貴重な機会を与えていただいた、北海道大学北極域研究センターの皆様へ感謝の言葉を申し上げ、今回の派遣事業の報告とさせていただきます。



河野大臣の基調講演



北極版シルクロードに関する分科会
におけるグジョンソン北極経済評議
会副議長のプレゼンテーション



ArCS分科会での北海道大学北極
域研究センター大塚教授による
プレゼンテーション



シンガポール国立大学エネルギー
研究所主催の分科会



会場となったハルバ国際会
議センター（右奥）
手前左は観光名所にもなっ
ている首相官邸
撮影したのは朝8時前であ
ったが、北極圏の街並みはま
だ暗かったです

■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動

〔派遣中に会議等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記述してください〕

※図表・写真等を含めて構いません。最大2ページで作成してください。